

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第128期

2008年4-9月期 報告書

2008年4月1日～2008年9月30日

CONTENTS

- 1 … 会社概要
- 2 … 株主の皆様へ
- 3 … [特集1]
2008年4-9月期決算概況
／通期業績予想(連結)
- 5 … [特集2]
技術力の強化と新事業の創出
- 7 … [特集3]
コア事業のさらなる拡大
- 9 … クラレトピックス
- 11 … 財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … ご意見板
- 巻末 … 株主メモ

株式会社 クラレ

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2008年9月30日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 (大手センタービル) TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区梅田1-12-39 (新阪急ビル) TEL(06)6348-2111 FAX(06)6348-2165
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp/

クラレグループ事業概要

化成品・樹脂

ポリアル樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、
EVOH樹脂・フィルム、イソブレン、ファインケミカル、
メタクリル樹脂、樹脂加工品

織 維

ビニロン、人工皮革、不織布、
面ファスナー、ポリエステル、
テキスタイル

機能材料・メディカル 他

メディカル製品、機能材料、
活性炭、高機能膜、
エンジニアリング

役員(2008年9月30日現在)

代表取締役会長	和久井 康明
代表取締役社長	伊藤 文大
取締役/専務執行役員	蜷川 洋一
取締役/常務執行役員	片岡 史朗
取締役/常務執行役員	吉野 博明
取締役/常務執行役員	坂井 俊英
取締役/常務執行役員	澤田 献三
取締役	青本 健作*1
取締役	塩谷 隆英*1

常勤監査役	田中 隼介
常勤監査役	久次米 忠彦
監査役	北川 俊光*2
監査役	小野寺 弘夫*2
監査役	山田 洋暉*2

常務執行役員	大崎 隆義
常務執行役員	真鍋 光昭
執行役員	柳田 登
執行役員	橋本 克矢
執行役員	松本 光郎
執行役員	前田 公平
執行役員	川原崎 雄一
執行役員	村上 敬司
執行役員	竹村 眞三
執行役員	長友 紀次
執行役員	福盛 孝明
執行役員	天雲 一裕
執行役員	山本 恭寛
執行役員	ゲルド レッパー
執行役員	ジャン・マリー パートン
執行役員	ノブヤトミタ
執行役員	山田 修
執行役員	赤木 孝夫

*1 青本 健作、塩谷 隆英は社外取締役です。

*2 北川 俊光、小野寺 弘夫、山田 洋暉は社外監査役です。



代表取締役社長
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はクラレグループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2008年4月1日~2008年9月30日)の経営環境は原燃料価格のさらなる高騰により収益が圧迫されるなど厳しい状況が続き、加えて期後半は世界的な金融不安に伴う実体経済の減速懸念が強まりました。この中で、当社は製品の高付加価値化、価格改定やコストダウン等の対応策にグループ全体を挙げて取り組みました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は前年同期比1.5%増の209,319百万円、営業利益は4.2%減の23,273百万円、経常利益は1.9%減の22,251百万円、四半期純利益は3.5%減の13,407百万円と増収ながら、減益となりました。

中期経営計画『GS-21』の最終年度にあたる本年度の通期では、売上高4,250億円、営業利益460億円、経常利益430億円、当期純利益260億円を目指します。世界的な信用不安による実体経済への影響がますます強まると予想されますが、計画に掲げた戦略、施策の結実へ全力で取り組んでまいります。

現在、2009年度から始まる新中期経営計画の策定に取り組んでおります。『10年企業ビジョン』で掲げた存在感のあるスペシャリティ化学企業の実現に向けて、コア事業のさらなる強化・拡大、新事業の創出等具体的な実行プランを作り上げてまいります。

当社は株主の皆様への還元方針により、連結純利益に対する配当性向は30%以上を目標としています。第2四半期連結累計期間の業績がほぼ計画通りに進捗しましたので、中間配当金は、前年同期実績の11円から1円増配の12円とさせていただきます。

なお、当期の年間配当金についても、予想連結当期純利益260億円を前提に、前年実績の22円から3円増配の25円を予定しております。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 文大

2008年4-9月期決算概況 / 通期業績予想

2008年4-9月期決算概況 セグメント別概況

金額表示は億円未満四捨五入しております。

■ 化成系・樹脂

前年同期比

■ 売上高	1,276億円 (+96億円)
■ 営業利益	265億円 (+31億円)

■ ボパール

ボパール樹脂は、世界的な供給不足が続く中、価格改定を進めました。光学用ボパールフィルムは売上増も、当期後半以降は液晶パネル在庫調整の影響を受けました。PVBフィルムは欧州での建築用途が引き続き順調に推移しました。

■ 〈エパール〉

米国の自動車用途はガソリン高や景気後退の影響を受けましたが、食品包装用途がアジアや新興国の市場で堅調に推移しました。原燃料価格高騰下で価格改定を推進したが、その影響をカバーできませんでした。

■ イソプレン

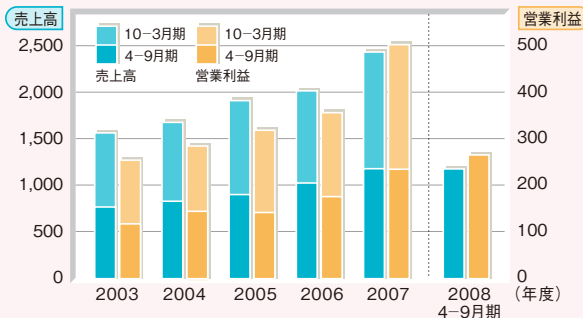
熱可塑性エラストマー<セプトン>は差別化品の展開とともに、価格改定やコストダウンに努めました。特殊化学品は溶剤がやや低調でした。ファインケミカルは、一部香料の生産停止により、減収ながら採算性が改善しました。

■ メタクリル

成形材料やシートは汎用品を中心に伸び悩みました。原燃料価格高騰下、価格改定を進めましたが、コストアップをカバーできませんでした。

■ 化成系・樹脂

(億円)



■ 繊維

前年同期比

■ 売上高	511億円 (△22億円)
■ 営業利益	29億円 (△10億円)

■ ビニロン

アスベスト代替のFRC(繊維補強セメント)用途が堅調に推移しました。建設・水産資材分野などは国内景況低迷の影響を受けました。

■ 〈クリアーノ〉

軽工品用途は堅調でしたが、靴用途、衣料用途の需要が低調でした。

■ 不織布 / 面ファスナー

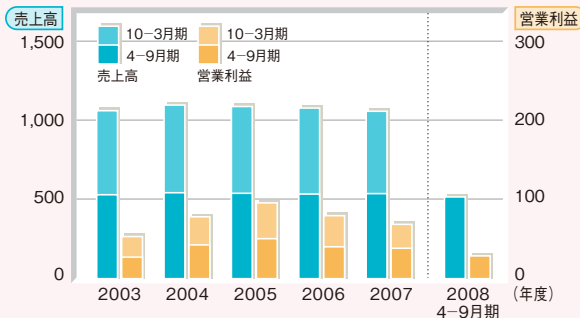
不織布は、原燃料価格高騰に対応すべく価格改定を進めました。面ファスナーは<エコマジック>など差別化品を中心に堅調でした。

■ ポリエステル 他

ポリエステルは、景況悪化の影響を受けたユニフォーム分野の不振に加え、原燃料価格高騰の影響を受けました。

■ 繊維

(億円)



(連結)

(単位:億円)

	2008年4-9月期	2007年度上期	増減
売上高	2,093	2,062	+31
営業利益	233	243	△10
経常利益	223	227	△4
当期純利益	134	139	△5

消去または、全社に含めた配賦不能営業費用は89億円です。

機能材料・メディカル 他

前年同期比

売上高	306億円 (△43億円)
営業利益	27億円 (△12億円)

メディカル

歯科材料が欧州市場での展開を中心に堅調に推移しました。透析事業を昨年10月に旭化成クラレメディカル株式会社に事業統合したことにより、減収となりました。

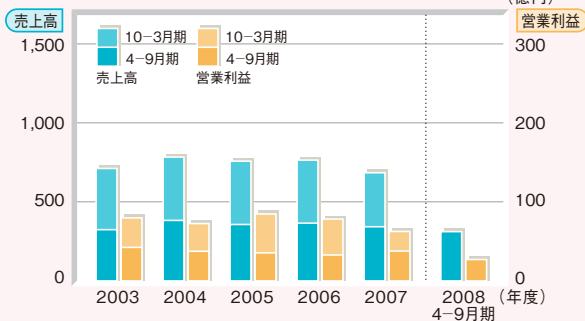
機能材料

耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は価格改定を進めましたが、原燃料価格高騰の影響を受けました。

その他

活性炭事業は、原燃料価格高騰により収益が悪化しました。景況悪化の影響を受け、エンジニアリング事業をはじめ、その他の関連事業も減益となりました。

機能材料・メディカル 他



2008年度 通期業績予想

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、世界的な信用不安による実体経済への影響が避けられずますます厳しくなるものと思われます。当社はグループ挙げて、事業の選択と集中をいっそう進め、コストダウンなど効率的な事業運営を図ってまいります。

こうした環境の下、通期の業績予想につきましては、景況悪化による需要減退の影響や円高の影響などを勘案し、連結売上高は4,250億円(前回予想比△250億円/前期比+74億円)となる見込みです。

営業利益につきましても、鋭意価格改定を推進してまいりますが、さらなる原燃料価格高騰の影響は避けられず、通期の連結営業利益は460億円(前回予想比△50億円/前期比△21億円)、当期純利益は260億円(前回予想比△20億円/前期比+4億円)となる見込みです。

(単位:億円)

	4-9月期	10-3月期	通期	前期比
売上高	2,093	2,157	4,250	+74
営業利益	233	227	460	△21
経常利益	223	207	430	+2
当期純利益	134	126	260	+4

	4-9月期実績	10-3月期前提	通期平均
〔前提〕			
国産ナフサ/kℓ	68.8千円	71千円	70千円
ドル	106円	100円	103円
ユーロ	163円	130円	147円



取締役・専務執行役員 開発・技術統括管掌、環境安全センター管掌
蜷川 洋一

技術力の強化と新事業の

現場の技術課題を解決する感性、この技術センスを磨くには、現場での経験が不可欠となります。サイエンスとセンスを兼ね備えた技術者を育てることにより、技術力の強化を図っていきます。

開発・技術統括管掌 (CTO) としての役割と課題についてお聞かせください。

開発・技術統括管掌 (CTO) は昨年度に初めて設置されたもので、「グループ内に分散する技術、技術者を一元的に統括し、経営戦略と連動した技術力の強化と新規事業創出の加速化に繋げる」ことを使命としています。その目的に沿って昨年10月に研究開発者、および技術者の再配置が行われました。技術力の強化と新事業の創出を実現させることが私の役割です。

□ 技術力の強化—サイエンスとセンス

技術力の強化は一朝一夕でできるものではありませんが、メーカーとして生きる以上、ぜひとも実現させなければなりません。技術開発の課題は、第1には新事業創出に繋がる新しい技術の開発、第2には現在持っている技術の高度化です。いずれにおいても重要なのはサイエンスとセンスです。すべての技術にはサイエンスの裏付けがあるはずで、サイエンスに裏付けされていない経験だけに頼った技術では新しい技術の開発はおろか、現有技術のレベルアップも望めません。一方、サイエンスを学んただけでは現場の技術課題には対応できません。サイエンスをベースに

注目すべき開発中の製品についていくつかご紹介ください。

すべての製品・事業にはライフサイクルがあり、企業の持続的発展のためには新製品・新事業の創出が不可欠です。昨年、テレビCMで「ミラバケッソってなんなの?」、「ミラバケッソと言ったらクラレなの」といった言葉がオンエアされていますが、これは「未来に化ける新素材」という意味であり、当社の新事業の開発思想を端的に表現した言葉です。

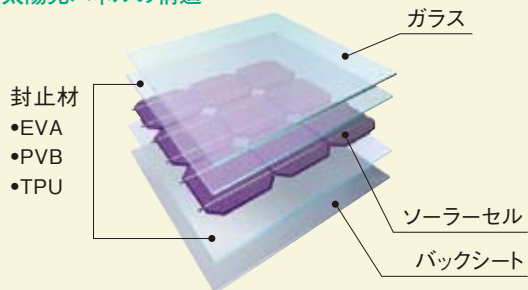
クラレグループのホームページを見てみると、いろいろな「ミラバケッソ」が紹介されています。その中から、エネルギー関連と新規樹脂関連の「ミラバケッソ」について説明します。

□ エネルギー関連

太陽光発電部材

当社は太陽電池関連の部材開発を実施しています。①太陽光パネル(薄膜シリコンタイプ)の封止材(液体などの物質が部品の内部に入り込まないようにする材料)用PVB(ポリビニルブチラル)フィルム、②太陽光を効率的に集光できる太陽光集光レンズ(透明樹脂の微細精密賦形品)さらには、③有機薄膜型太陽電池です。①については、現在封止材としてEVA(エチレン・ビニルアセテート)が主に使われていますが、当社グループが製造するPVBフィルムの耐久性が評価され、すでに欧州を中心に販売が拡大しつつあります。

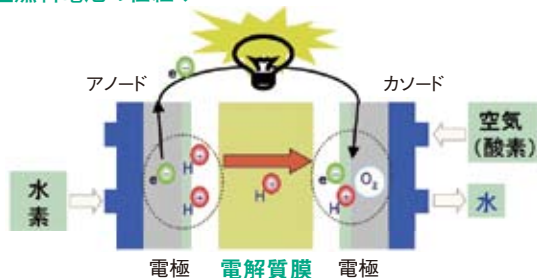
■ 太陽光パネルの構造



■ 燃料電池用部材 (電解質膜)

今後注力しようとしている次世代エネルギー関連部材領域での一つの柱が、水素をエネルギー源とするクリーンな「燃料電池」の部材です。当社は、燃料電池用の高性能な炭化水素系ポリマー電解質膜を開発しています。独自開発のエラストマーを使用し、独自製膜技術によりナノ構造をコントロールすることによって、発電性能の大幅アップに繋がりました。また、柔軟性というエラストマー由来の特長を持つため、電極との密着性が高く、組み立てのしやすさなどのメリットを併せ持っています。

■ 燃料電池の仕組み



□ 新規樹脂関連

LAポリマー (新規アクリル系熱可塑性エラストマー)

柔らかく、良く曲がって、弾性を持った透明で美しい樹脂です。アクリル樹脂は「プラスチックの女王」と言われるくらい美しさを持ちますが、残念ながら、硬くて脆いために加工がしづらいという欠点があります。当社では、この美しさを保ったままゴムのようになり柔らかいアクリル系の樹脂を開発しています。LAポリマーは流動性、耐候性、透明性、塗装性、接着性など優れた性質に加え、可塑剤不要といった特長を有しています。

LAポリマーについては世界中どこを探しても同じような性質を兼ね備えた樹脂はありません。用途としては成形材料(透明で美しくかつ曲げることができる)、次に接着剤(透明なのでできたものが大変美しい)、さらにこういった性質を利用して他の樹脂の改質材としても期待できます。





取締役・常務執行役員 機能樹脂・フィルムカンパニー長
澤田 献三

コア事業のさらなる拡大

—世界No.1の酢酸ビニル系事業のさらな

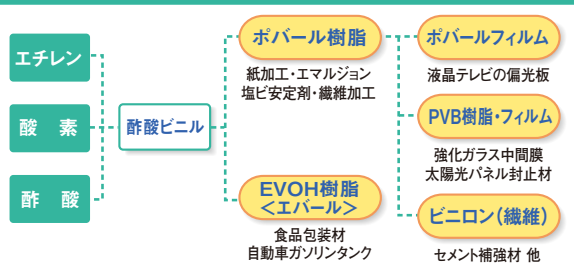
当社の酢酸ビニル系事業は、多様なアプリケーション展開により、用途分野は広範（食品、電機電子、自動車、建築など）にわたり、また、世界的にもシェアが高い製品が多いのが特徴です。

酢酸ビニル系事業の沿革についてお聞かせください。

酢酸ビニル系事業の近年の成長は目覚ましく、07年度には連結売上高の40%を超える柱となっています。酢酸ビニル系事業は、合成繊維ビニロンの企業化（1950年）に始まる当社のコア中のコア事業で、エチレンと酸素と酢酸を反応させて、酢酸ビニルを作り、酢酸ビニルを原料モノマーとし、樹脂・フィルム・繊維と広範囲にわたるアプリケーションを展開しています。当社はバイオニアであり、1950年のビニロン事業化をルーツとし、58年のポバール樹脂外販開始以来、機能樹脂・フィルムの化学品事業をスタート、すでに半世紀を迎えています。この間あくなき新製品開発、用途開発、そしてグローバルな拠点の展開により持続的な成長を遂げてきました。

主な製品とその用途などについて教えてください。

酢酸ビニル系事業の広範囲な用途展開



●ポバール樹脂

紙加工用途、エマルジョン用途、塩化ビニルの安定剤用途、繊維加工用途などで使用されています。

●ポバールフィルム

液晶ディスプレイの表示に欠かせない偏光フィルムのベースフィルムとしての需要が急伸びています。

●PVB樹脂・フィルム

自動車フロントガラスや高層ビルのガラスの中間膜として使用されています。

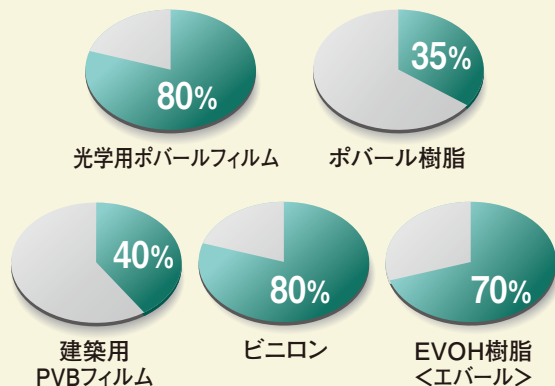
●<エパール> (EVOH樹脂)

食品包装材や自動車のガソリンタンクに使用されています。

●ビニロン

アスベスト代替のセメント補強材として、需要が伸びています。

■世界シェア No.1 酢酸ビニル系製品群



当社推定（ポバール樹脂／ビニロンは中国を除く）

世界No.1である酢酸ビニル系事業の今後のさらなる成長戦略について、お聞かせください。

酢酸ビニル系事業の売上は、合計で2002年度は約900億円、2007年度は約1,900億円と2倍に成長しており、伸び盛りの事業です。

また、成長ドライバーとして拡大分野への重点投資を進めており、各事業の設備増強を推進しています。

(2008年9月末現在)

品目	生産拠点	設備能力/年	増設中	稼働時期 (予定)
ポバール樹脂	岡山	96,000t		
	新潟	28,000t		
	ドイツ	70,000t		
	シンガポール	40,000t		
ポバールフィルム	倉敷	75百万㎡	+15百万㎡	2009年度以降
	西条	31百万㎡	+15百万㎡	2009年度以降
PVB樹脂	ドイツ	29,000t	+10,000t	2009年度
PVBフィルム	ドイツ	36,000t		
	ロシア	4,000t		
EVOH樹脂 <エバール>	岡山	10,000t		
	アメリカ	35,000t	+12,000t	2010年度以降
	ベルギー	24,000t		
EVOHフィルム <エバール>フィルム	岡山	3,000t		
ビニロン	岡山	35,000t	+5,000t	2008年度
<クラロンK-II>	岡山	7,000t		

ポバール樹脂は日本、ドイツ(フランクフルト)、シンガポールの3拠点で展開しています。

本年7月にはシンガポールに「クラレアアジアパシフィック」を発足させ、生産・販売一体の事業会社として、アジア戦略を担っていきます。将来は、アメリカ市場への拠点進出も視野に入れ、各地域の拠点を質、量ともにさらに拡充し、世界No.1メーカーとしての基盤を強化していきます。

ポバールフィルムは、液晶ディスプレイの世界的な需要の伸びに対応すべく、供給力を十二分に備えると同時に品質の向上を図り、業界の発展に貢献してまいります。

PVB樹脂は29千トンから39千トンへ増強中です。

また、PVBフィルムも2007年8月に26千トンから34千トンに拡大し、その後40千トンまでに生産能力を拡大しました。

PVBフィルムはこれまで欧州の建築用合わせガラスを主用途としてきましたが、今後は、欧州以外の市場開拓に注力するとともに、太陽光発電など有望な成長分野に用途を拡大していきます。また欧州域外への拠点進出も図ります。

EVOH樹脂<エバール>は日本、ベルギー(アントワープ)、米国(ヒューストン)の3拠点体制で展開しています。<エバール>は現在、日本、欧州、米国が主要な需要地ですが、ライフスタイルの変化や物流インフラ整備が進む中で、中国・アジア、南米、ロシア、東欧など新興市場の開拓を早めたいと思います。また、柔軟性の高い<エバール>SPシリーズやレトルト対応の<クラリスタ>などの開発品を普及させてまいります。

酢酸ビニル系事業の拡大には、自力での展開、他社とのアライアンスなどでの展開、M&Aでの展開、この3つの手段のいずれも視野に入れていきます。また、これまで以上にグローバルな拡大が予測されますので、事業運営の現地化と各拠点間の交流の深化を図っていきます。人材の教育を継続し、当社の今後の拡大発展を牽引してまいります。

クラレピックアップス [クラレの情報が一目でわかる]

2008年 4月

5月

6月

成形面ファスナー<マジロック>生産設備の増設を決定

クラレファスニング(株)は、丸岡工場(福井県坂井市)に成形面ファスナー<マジロック>*の生産設備(年産能力700万m)を増設することを決定しました。稼働は2009年4月予定で、増設後の年産能力は現状の700万mから1,400万mになります。



<マジロック>

この増設は、自動車分野・インテリア分野などでの需要増加に対応するものです。特に自動車シート用途では、従来の組み立て工法に比べ、<マジロック>を採用した「モールドインシステム工法」は、(1)500g以上/台の軽量化が図れる(2)組み付け技術の平易化・均一化により、シート製造の自動化・生産効率の向上が図れる(3)労働負荷による労災問題の抑止に繋がる、などの特長から、自動車業界で実績を上げています。



自動車シート

*成形面ファスナー<マジロック>とは

斬新でユニークなプラスチック成形面ファスナー。高い係合強さと高機能を持ち、自動車を始め建材・土木などの産業資材用途からアパレル・メディカル用途まで幅広く展開しています。

耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>新生産設備の竣工式を挙行

当社は、鹿島事業所(茨城県神栖市東和田36)で進めてきた耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>の新生産設備(年産5,500トン)がこのほど完成し、2008年6月4日に竣工式を実施しました。



<ジェネスタ>モノマープラント

当社が独自技術により開発し、2000年に事業化した耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、電気・電子機器の「鉛フリー」化を実現する新素材として、世界的な環境意識の高まりや環境規制強化の流れを受け順調に拡大しています。さらに今後は自動車部品など新分野への広がりも期待されます。



<ジェネスタ>

生産能力

単位:年産トン

	事業所	従来能力	増設(第一期)	増設(第二期)
			2008年稼働	2010年稼働
<ジェネスタ>	鹿島事業所		5,500	5,500
	クラレ西条	5,500	5,500	1,500
	合計	5,500	11,000	5,500
モノマー ノナンジアミン	鹿島事業所	3,000	(休止)	7,000
	合計	3,000	7,000	7,000

中国・四川省大地震の被災者支援について

当社は中国・四川省で発生した大地震による被災者を支援するため、義援金500万円を拠出しました。

当社ホームページのリニューアルのお知らせ

クラレグループのホームページ(<http://www.kuraray.co.jp/>)を8月21日にリニューアルしました。デザインを新たにするとともに、使いやすさの向上、一部の情報の充実を図りました。

- 文字サイズを変えられるようになりました。
- 「ニュース」を分野別に分類表示することにより、検索しやすくなりました。
- 「投資家の皆様へ」のコンテンツを見直し、情報の充実を図りました。



旧ホームページ



新ホームページ

7月

8月

9月

■ クラレアジアパシフィック

「Kuraray Asia Pacific Pte. Ltd.」が発足

クラレグループのアジア太平洋地域を統括する拠点として「クラレアジアパシフィック[Kuraray Asia Pacific Pte. Ltd.]」が7月1日に発足しました。ポリビニルアルコール(以下PVA)樹脂の生産・販売およびアジア太平洋地域でのポリビニルブチラール(以下PVB)樹脂・フィルムの販売など、関連化学品の幅広い展開を行っています。

同社の発足により、PVA樹脂の従来の汎用品中心の展開から、高度なユーザーニーズに対応できる高付加価値化の推進を図ります。また、PVA樹脂にとどまらず、PVB樹脂・フィルムなど関連製品の新たな事業展開にも視野が開けることになりました。今後、中国、インドを含む成長力の高いアジア・オセアニアマーケットにおける市場開拓をさらに推進し、クラレ関連製品の事業拠点としての活用を図ってまいります。



クラレアジアパシフィック

クラレアジアパシフィックの概要

社名	Kuraray Asia Pacific Pte. Ltd.
資本金	27,775千US\$(クラレ100%)
社長	竹村 眞三
所在地	(本社)10 Sakra Avenue Singapore 627887 (営業オフィス)331 North Bridge Road, #18-02 Odeon Towers, Singapore 188720
事業内容	PVA樹脂の生産 PVA樹脂およびその他クラレグループ製品のアジア太平洋地域での販売
生産設備	PVA樹脂生産設備 40,000トン/年

■ 欧州における歯科材料の 販売体制強化について

当社とクラレメディカル(株)は、欧州における歯科材料の販売体制を強化するため、7月1日にオランダおよびイタリアに現地拠点を設けました。

オランダにおける販売代理店の子会社化

クラレメディカルのベネルクスにおける販売代理店 Acacia Dental Trade & Marketingの全株式を取得し、クラレの欧州現地法人 Kuraray Europe GmbH(以下KEG)の100%子会社としました。これにより同社が持つ同地域での商権を引き継ぎ、クラレグループの歯科材料販売拠点として機能強化します。

イタリアにおける子会社の設立

イタリアにマーケティング・学術活動等を行う子会社(KEG 100%子会社)を設立し、活動を開始します。同国での販売については、販売総代理店との契約を解除し、2009年1月よりKEGからの直販とします。

クラレメディカルは、自然な外観と堅固な修復を可能にする歯科用充填材および接着材を中心に、歯科材料事業を主力事業として展開しています。

国内で確立した高度な技術を武器に、近年では海外への展開を強化しています。

この3年間に歯科材料の売上高に占める海外の比率は52%⇒63%に拡大する見込みです。

■ 第6回「<パーカッショ>美脚大賞」発表

健康的で美しい「美脚」を称え、第6回<パーカッショ>美脚大賞を開催しました。クラレが開発した<パーカッショ>は、天然皮革の風合いを生かしたまま、その欠点を克服した人工皮革です。表面のなめし加工技術の進化により、天然皮革においては困難だった微妙なシルエット加工を可能にし、型くずれもしにくく美脚のための靴づくりの枠が広がりました。

大賞は、それぞれの分野で活躍されている、広末 涼子 さん、瀬戸 朝香 さん、真矢 みき さん、菅山 かおる さんが受賞されました。各受賞者には、自らがデザインをされた<パーカッショ>製のパンプスが贈呈されました。



美脚大賞受賞者シューズ



美脚大賞受賞者

四半期連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	第2四半期*1	前中間期*2	増減
売上高	2,093	2,062	31
売上原価	1,485	1,456	29
売上総利益	608	606	3
販売費及び一般管理費	375	363	13
営業利益	233	243	△10
営業外収益	16	22	△5
営業外費用	27	38	△11
経常利益	223	227	△4
特別利益	13	2	10
特別損失	15	9	5
税金等調整前四半期純利益	220	220	1
法人税、住民税及び事業税	60	85	△25
法人税等調整額	25	△5	30
少数株主損益	(減算)1	(減算)0	0
四半期純利益	134	139	△5

*1: 2008年4月1日～2008年9月30日 *2: 2007年4月1日～2007年9月30日

※四半期連結損益計算書、四半期連結貸借対照表、四半期連結キャッシュ・フロー計算書の金額表示は億円未満を四捨五入しています。

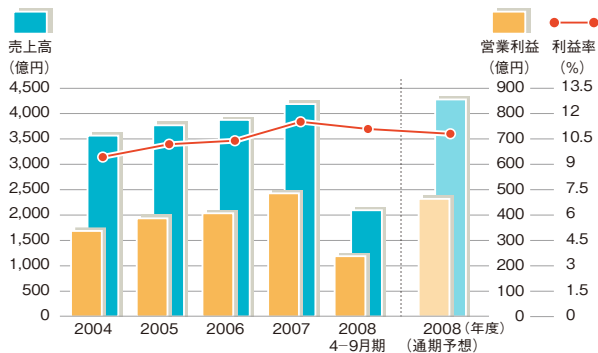
四半期連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動資産	1,994	1,963	31
現金及び預金	150	111	39
受取手形及び売掛金	945	955	△10
有価証券	—	21	△21
棚卸資産	759	725	34
その他	147	161	△14
貸倒引当金	△8	△10	3
固定資産	2,979	2,941	38
有形固定資産	1,960	1,924	36
建物及び構築物	347	339	9
機械装置及び運搬具	1,084	1,102	△18
建設仮勘定	296	265	31
その他	232	218	14
無形固定資産	323	340	△17
投資その他の資産	696	677	19
投資有価証券	527	516	11
その他	172	164	8
貸倒引当金	△3	△3	0
資産合計	4,972	4,904	69

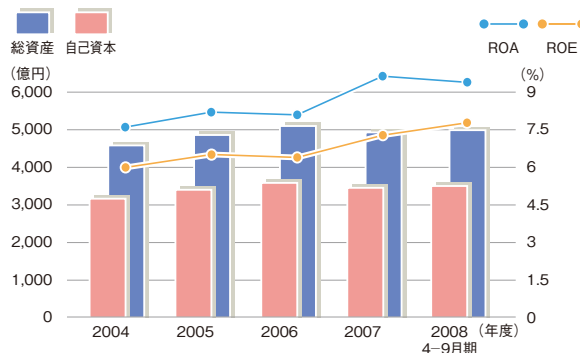
*1: 2008年9月30日現在 *2: 2008年3月31日現在

売上高・営業利益・営業利益率(連結)



*営業利益率=営業利益÷売上高×100(%)

総資産・ROA・自己資本・ROE(連結)



*ROA(総資産利益率)=4-9月期営業利益×2÷期首・期末平均総資産×100(%)

*ROE(自己資本当期純利益率)=4-9月期当期純利益×2÷期首・期末平均自己資本×100(%)

(単位:億円)

負債の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動負債	839	891	△ 51
支払手形及び買掛金	373	392	△ 19
短期借入金	136	120	16
その他	331	379	△ 48
固定負債	614	565	49
社債	100	100	—
長期借入金	158	120	39
その他	355	345	10
負債合計	1,453	1,455	△ 2
純資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
株主資本	3,340	3,245	95
資本金	890	890	0
資本剰余金	872	872	△ 0
利益剰余金	1,987	1,893	94
自己株式	△ 409	△ 409	0
評価・換算差額等	149	173	△ 25
その他有価証券評価差額金	58	69	△ 11
繰延ヘッジ損益	0	0	0
為替換算調整勘定	90	104	△ 14
新株予約権	1	1	0
少数株主持分	29	29	1
純資産合計	3,519	3,448	71
負債及び純資産合計	4,972	4,904	69

*1：2008年9月30日現在 *2：2008年3月31日現在

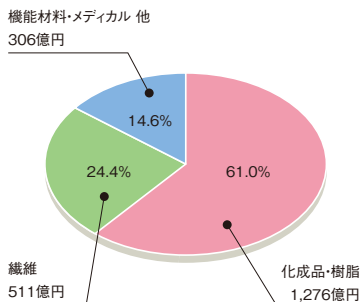
四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

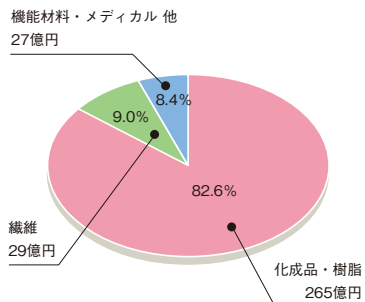
科目	第2四半期*1	前中間期*2	増減
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	230	210	19
税金等調整前四半期純利益	220	220	1
減価償却費	172	144	28
法人税等の支払額	△ 88	△ 68	△ 20
その他営業活動による支出	△ 75	△ 86	11
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 238	△ 181	△ 57
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 205	△ 221	16
その他投資活動による収支	△ 33	40	△ 73
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	18	△ 261	278
借入金等の純増減額	59	74	△ 15
配当金の支払額	△ 38	△ 37	△ 2
その他	△ 3	△ 298	295
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	2	△ 2
5.現金及び現金同等物の増減額	9	△ 229	238
6.現金及び現金同等物の期首残高	122	340	△ 218
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	7	1	6
8.現金及び現金同等物の四半期末残高	138	112	25

*1：2008年4月1日～2008年9月30日 *2：2007年4月1日～2007年9月30日

08年4-9月期事業セグメント別売上構成比(連結)



08年4-9月期事業セグメント別営業利益構成比(連結)



*消去又は全社共通費用(89億円)は各セグメントには配賦していません。

海外売上高推移(連結)



■発行可能株式総数

1,000,000,000 株

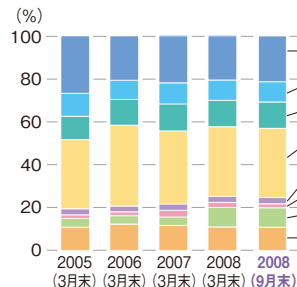
■発行済株式の総数

382,863,603 株

■株主数

27,407 名

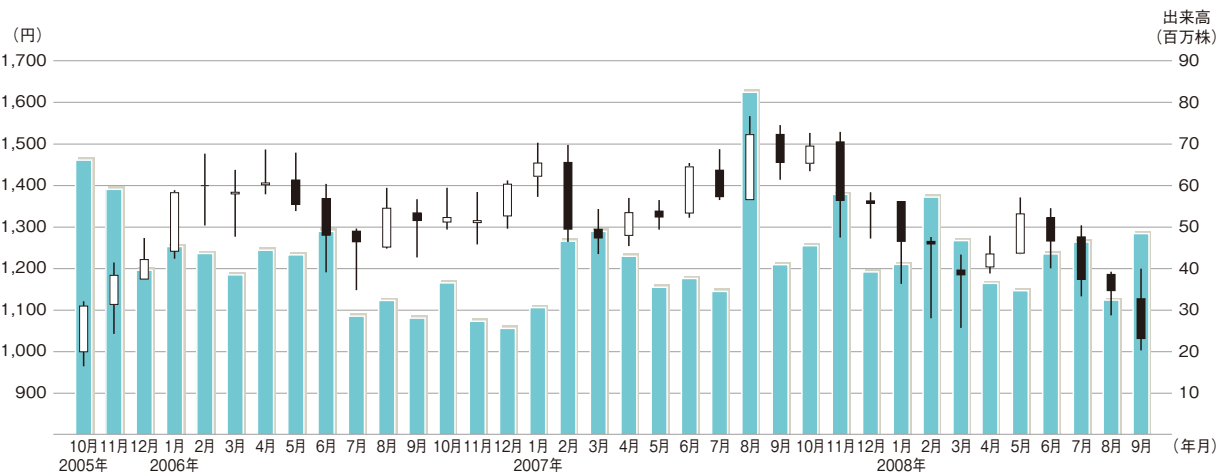
■所有者別株式分布の推移



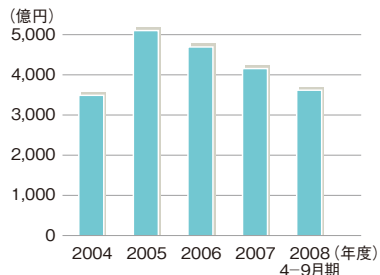
	2005 (3月末)	2006 (3月末)	2007 (3月末)	2008 (3月末)	2008 (9月末)	(%)
信託銀行	26.78	20.36	21.63	20.48	21.04	
生命保険会社	10.53	8.90	10.09	9.56	9.81	
都銀その他金融機関	10.86	12.32	12.47	12.21	12.12	
外国人	32.54	37.62	34.08	32.40	32.22	
その他国内法人	2.70	2.86	2.84	2.99	3.09	
証券会社	1.64	1.81	3.28	2.34	1.84	
自己株式	4.11	4.02	3.89	9.05	9.04	
個人・その他	10.84	12.11	11.72	10.97	10.84	
計	100	100	100	100	100	

■株価・出来高の推移チャート

株価は東京証券取引所における市場相場による。

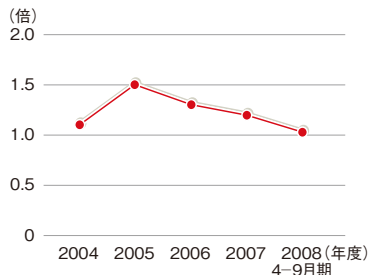


■時価総額(期末)



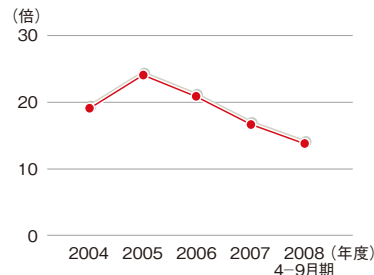
*時価総額=期末株価×(期末発行済株式総数-期末自己株式数)

■PBR(株価純資産倍率)



*PBR=期末株価÷1株当たり連結純資産額

■PER(株価収益率)



*PER=期末株価÷(当期利益÷期中平均発行済株式総数)
*2008年4-9月期のPERは、2008年9月末の株価、期中平均発行済株式総数、通期の当期純利益見通しに基づき算出しています。

ご意見板

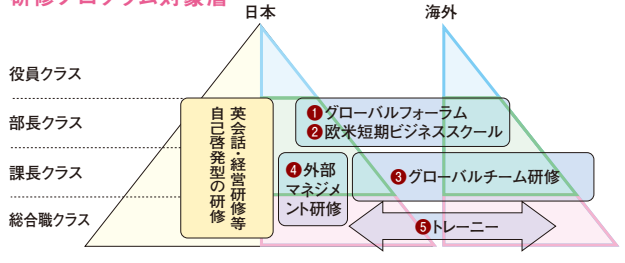
株主の皆様とのコミュニケーションの一環としてアンケートを実施しています。以下に第127期期末報告書で多数のご意見をお寄せいただきました、「人材育成」制度について紹介をさせていただきます。

クラレグループでは、海外市場の急速な拡大に対応して グローバルな事業展開を担う人材の育成 に力を入れています。

クラレでは海外市場の拡大が急速に進む中で、グローバル経営を支える人材がますます必要となっています。クラレには液晶ディスプレイ向けの光学用ポリマーフィルムをはじめ、食品包装材やガンソリタンクに使用されるガスバリア樹脂<エパール>など世界市場でトップシェアを誇る製品が多く、2007年度の海外売上高比率は48%に達しています。

今後も海外における市場動向にスピーディに対応し成長を継続していくためには世界規模の事業展開を担う人材が不可欠であり、その育成が急務となっています。そこでクラレでは、従来の語学研修やリーダー研修に加えて新たな研修制度「グローバル人材育成プログラム」を展開しています。

研修プログラム対象層



「グローバル人材育成プログラム」では、国内外から選抜した幹部候補や管理職を対象とする8コースのカリキュラムを用意しています。具体的には、部長クラスを対象とした「グローバルフォーラム」、事業部の管理職を対象とした海外での集合研修「グローバルチーム研修」、欧米のビジネススクールで短期のエグゼクティブプログラムを受講する「欧米短期ビジネススクール」などがあります。

また、国内若手クラスが海外関係会社等で現場実習に取り組む「海外トレーニー」や、海外採用人材がクラレ本社や国内事業所でグループ経営について学ぶ「日本トレーニー」など、国内外の人材に若いうちからグローバルな視野を培ってもらうための研修を行っています。

これらの研修は、基本的に全てのカリキュラムが英語で進められます。また、「グローバルフォーラム」や「グローバルチーム研修」は、国内人材に限らず海外採用人材からも広く参加者を募る等、ユニークなカリキュラムとなっています。

2008年度は年間約60名を対象に研修を実施中です。これらの研修を通じて、クラレの将来を担う国内外の人材がグローバルな視野を身につけるだけでなく、クラレグループの一員としての経営意識やクラレDNAを共有することも目指しています。



アンケートご協力をお願い

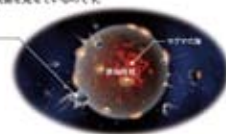
「クラレ通信」をご覧くださいまして、ありがとうございます。今後とも、株主の皆様とのコミュニケーションの向上を図っていきたく思います。つきましては、添付のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた方には、2009年クラレグループカレンダー「THE VITAL EARTH」をプレゼントさせていただきます。日本を代表する科学雑誌「ニュートン」監修によるサイエンスコラム・イラストを掲載したカレンダーです。

なお、勝手ながらアンケートは12月31日(消印有効)に締め切らせていただきますので、あらかじめご了承をお願い申し上げます。



地球の「年齢」は? 生命の誕生はドラマチックな物語に満ちているものです。地球の誕生も例外ではありません。この星が誕生したのは、今から約46億年前というのが定説。原始地球の激震を形成していたガスと塵、今から約45億年前に集まってできた直径1300kmサイズの地球から7億年前に分離したのが地球です。誕生したばかりの地球は、重心がドロドロに溶けたマグマの海が広がっていたといわれています。こうした生命受けの地球は、太陽系の衛星、月の岩石などから、その年齢を推し量ることができます。そして膨大な年月をかけるうちに陸地が広化、陸地も広がるながら、今、さまざまな表情を見せているのです。



*ご応募いただいた時期によりましては、翌年1月の発送となり、また、ご応募いただきましたことをご承知くださいますようお願い申し上げます。

CM

クラレグループの企業CM ~お知らせ~

当社グループの認知度向上を主眼に、テレビCMを全国で放映しています。キーワードである「ミラバケッソ」と女優成海璃子さんを継続起用、不思議な動物「アルパカ」と共演する新CMを8月から放映中です。

以下の番組でCMを放映しています。

経済ドキュメンタリー「ガイアの夜明け」

① テレビ東京系6局ネット
(テレビ東京・テレビ大阪・テレビせとうち・テレビ北海道・テレビ愛知・TVQ九州放送)
毎週火曜日:
22時00分~22時54分

② BSジャパン
(テレビ東京系BSデジタル放送局)
毎週金曜日:
21時00分~21時54分

番組WEBサイト
URL: <http://www.tv-tokyo.co.jp/gaia/>





株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 上記の他、必要があるときにはあらかじめ公告して定めた日
公告の方法	当社のホームページに掲載します。 http://www.kuraray.co.jp/koukoku.html
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国本支店

株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について

平成21年1月5日に株券電子化となる予定です。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である左記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて

買取請求 特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行予定日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。

買増請求 平成20年12月12日から平成21年1月4日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行予定日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。